

さあ本番!! 仙台・宮城デスティネーションキャンペーン

いよいよ10月から12月までの3カ月間、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」(通称DC)が開催されます。「DC」とは、北海道から九州までのJR6社が特定の県や市町村、旅行会社などと連携して、全国にその地域をアピールする大規模キャンペーンです。

■覚えてますか? DC(デスティネーションキャンペーン)の定義
D→「デスティネーション」の頭文字で「目的地・行き先」のこと
C→「キャンペーン」の頭文字で「宣伝戦」のこと

「戦国BASARA」や戦国武将ブームの影響、加えてDCイメージキャラクター「こじゅうろうくん」人気で、白石を訪れる若い女性観光客が急増しています。白石城の入り込みや売店の売り上げも、小十郎関連グッズの売り上げが伸びたことで、前年比で大きく増加しています。同時に城下町を黄色いレンタサイクルで回遊する観光客を目にするよ

うになりました。そこで、昨年度に検討した本番DCに向けてのおもてなし事業として、具体的行動の第一歩「おもてなしレンタル傘」事業を始めます。

これは、本市を観光などで訪れたお客さまが、不意の雨に遭ったときに、気軽に傘を使うことができると、この活動を通して観光客などを市民全員でお迎える「おもてなし」の気運を高めようとするものです。そこで、「みんなでできるおもてなし」「不要なビニール傘ありませんか? 急募します!」

皆さんのお宅に不要の傘がありましたらご寄付ください。白色または透明のビニール傘など、高価なものではなくて結構ですので、壊れていないものをお願いします。

また、この活動を円滑に進めるため、貸し出しと返却を行う「レンタルポイント」として、25カ所のお店や温泉旅館などにご協力いただきます。

まずは実行委員が傘の管理や移動を受け持ち、将来的には協力店同士が、連携して管理していくことを目指します。できることから一つずつ始めたいと思います。



▲協力店に張られているポスター

●問い合わせ先 (DC全般)

商工観光課 ☎22-1321

●レンタル傘寄付に関する問い合わせ先

商工会議所 ☎26-2191

子どもの施設安全一斉点検

子どもたちが遊ぶ公園の遊具などが安全かどうかを確認する「子どもの施設安全一斉点検」が3月15日、市内29カ所で行われました。これは、内閣府が国民運動の一つとして推進している「子どもの施設の安全全国一斉点検」の一環として行われたものです。

点検には本市のほか、保育園や母親クラブ、(社)白石青年会議所の皆さんなど約100名が参加。公園内にある滑り台やブランコなどが正常に動くかどうかを目視や手で触るなどして点検し、すべての施設で安全を確認した参加者は、ほっと胸をなで下ろしていました。



▲つくし公園の遊具の安全を確認する参加者の皆さん

市・県・住民など13団体が公害防止協定を締結

雄大な景観をたたえる蔵王連峰。この蔵王のふもとに住む住民の皆さんや畜産などを営む事業者により市や県などが加わり、環境保全と産業振興の両立を目指した公害防止協定が締結されました。3月21日に市庁舎で行われた調印式には、本市のほか福岡八宮・深谷地区にある4つの自治会、6つの畜産事業者、宮城県仙南保健所、白石市土地改良区の代表者が出席。宮城県大河原畜産保健衛生所が立ち会う中、協定書への署名を行いました。協定書は、悪臭や水質汚濁の防止、産廃の処理などについて、事業者により法の順守を求める内容になっています。



▲公害防止協定に調印した各団体の代表者

テレビ放送視聴者の皆さまへ 地上アナログテレビ放送は、「2011年7月24日」までに終了します

本市では、白石中継局(大萩山)から地上デジタル放送の電波が発射されており、既に地上デジタル放送を見ることが出来ます。

■なぜデジタル化するの?

地上テレビ放送をデジタル化することで、テレビ番組が「きめ細かい画像や迫力ある音響」で楽しめるほか、「データ放送」画面でさまざまな情報がいつでも見られるようになります。

さらに「ワンセグ放送」で車の中や携帯電話でもチラツキのない画面を見られるなど、デジタル放送電波の特性を生かしたさまざまなメリットがあります。

このように地上デジタル放送は、今までのテレビを「見るテレビ」から「使うテレビ」に変えることによって、皆さんの生活を豊かにしていくことを目指しています。

■どうしたらいいの?

●テレビ受信機は!

地上デジタル放送は、従来のアナログテレビのままでは見ることはできず、「デジタルテレビやデジタル

受信機(チューナー、DVDなど)を新しく買う」こととなります。

今までのアナログテレビをそのままお使いになりたい方は、「デジタルチューナー」を買い足して、お手持ちのテレビに接続してください。

なお、共同アンテナ設備を利用してテレビを見ている方は、その管理者の方に相談し、改修工事のための対応を協議してください。

●テレビやビデオを買い換えるなら

地上デジタル放送に対応しているかどうかは、右のマークが目印です。

また、下のマークの製品は、アナログ放送終了後にデジタルチューナーを接続する必要があります。



◎総務省東北総合通信局放送課

☎022-221-0700

(平日8:30~12:00、13:00~17:00)

<http://www.ttb.go.jp/>

紙上からお礼申し上げます

生活基盤の整備や福祉事業などのため、次の方々からご寄付をいただきました。紙上からお礼申し上げます。すぎのこ母親クラブ会長 佐々木とし子氏、村上利氏、白石市立越河小学校児童会代表 大槻淳氏、(有)後藤不動産代表取締役 後藤正太郎氏、セコム工業(株)代表取締役社長 後藤明氏、松野榮夫氏、理容・美容業スマイリンググループ代表 真壁太郎氏、社会福祉法人白石陽光園理事長 石川規夫氏、佐久間勝敏氏、羽根田英一氏、谷津善美氏、佐藤賢一氏



▲セコム工業(株)様より、自動体外式除動器(AED)の収納ボックスを寄贈いただきました。市役所本庁舎正面玄関脇に設置しています。

吉見教育基金顕彰状授与式を開催

各種スポーツ大会や、絵画などの文化活動で活躍した市内の小中学生をたたえる「吉見教育基金顕彰状授与式」が3月26日、市庁舎で行われました。今回表彰されたのは、空手道やドッジボール、新体操競技で活躍した、個人8名、3団体と、絵画や硬筆、書道、作文で活躍した個人10名の皆さん。風間市長から各個人と団体の代表者に顕彰状と記念品が贈られました。

この吉見教育基金は、平成9年に解散した、市内の学校法人吉見学園の理事長、吉見たけさんの寄付を基に設けられました。子どもたちの今後の活躍が期待されます。



▲顕彰状を授与された皆さん

市庁舎のエレベーターにサバイバルボックスを設置

4月8日、市庁舎のエレベーター2基に、サバイバルボックスが設置されました。これは、飲料メーカーのダイドードリンコ(株)が、災害発生時に飲料が無料で取り出せる自動販売機(災害救援ベンダー)を設置した施設などに無料で設置し、消耗品や食料品の交換などのメンテナンスも同社が無料で行うものです。

エレベーターのサバイバルボックスは、災害でエレベーター内に人が閉じこめられた際、救援までに数日かかっても生き延びられるよう、食料品や飲料水、簡易トイレなどが収納されています。



▲「エレベーターサバイバルボックス」の設置は東北北